

再論：中国空軍最新鋭 SU-35 戦闘機の最初の配備部隊はどこか？ (改革中の中露空軍)

漢和防務評論 20150703 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍は、SU-35 の導入を契機として部隊の改変に取り組もうとしているようです。

1 機の戦闘機の戦闘力の向上にしたがって、従来の 24 機編制の連隊を旅団に格上げして師団から独立させ、独立作戦能力を発揮させようというのです。

この改革は、ロシア空軍が現在試行中で、中国空軍はその成果を見てから本格的に取り組もうとしているようです。空軍部隊全体として見ても、格上げにつながるので、空軍は歓迎するはずで、習近平は空軍に肩入れしているとの話が漢和の評論記事にもあります。

平可夫

中国空軍最新鋭 SU-35 戦闘機の最初の配備部隊はどこか？本誌はすでに前号で、SU-30MKK の運用に最も経験豊富な部隊ではなかろうか、その中で航空兵第 3 師団第 9 連隊(安徽省蕪湖)、第 29 師団 85 連隊 (浙江省衢州)、及び第 18 師団 54 連隊 (湖南省長沙)が最も有力であると述べた。SU-35 戦闘機の性格は、SU-30MKK と同クラスの多用途戦闘機に属する。しかし一部の専門家によると、最初に SU-35 を受け入れる部隊は、改編された独立旅団になる可能性があるという。すなわち従来の戦闘機連隊が上述の各師団から独立し、単独で旅団に改編される。この専門家の分析は極めて興味深く一定の根拠がある。

確かに中国空軍は、師団を旅団に改編中であり、しかも旅団に改編された作戦部隊はすべて J-11B 型戦闘機等、第 3 世代戦闘機保有部隊である。今のところ、公的に明らかになった旅団改編部隊は、元蘭州軍区航空兵第 37 師団第 111 連隊である。同部隊は、J-11B/BS 戦闘機を装備し、新疆ウイグル自治区コルラに駐屯、初めて第 111 旅団と改称された部隊である。SU-30MKK を装備する元南京軍区航空兵第 29 師団 85 連隊は、85 旅団に改編された。これらの改編は 2012 年から開始され、3 年が経過したが、中国空軍全体の改編の歩みは遅く、試行的性質が極めて強い。しかも真に重要な作戦部隊である航空兵第 1、第 2、第 3 師団は、未だ動きが無い。南京及び広州軍区において、主要な作戦部隊が改編されていないところを見ると、改編に相当慎重であることが分かる。動きが非常に遅い。改編の目的は、旅団の独立作戦能力を強化するにある。旅団に昇格すると、結節が減少し、集団、師団、及び連隊の職能が一身に集まり、平準化された作戦部隊が建設される。通常 1 個航空兵旅団は、2 個飛行大隊で編成され、装備機数は 24 機で、数は過去の連隊と同じ

である。NATO の 1 個飛行大隊の 18 機編制と比較すると数は多い。

注意すべきことは、現在旅団に改編された作戦部隊は、すべて J-11、SU-30MKK など双発大型の戦闘機保有部隊であることだ。単発の J-10 戦闘機部隊は、全て連隊編成を維持している。これらのことから、中国空軍が SU-35 を受領した後、独立した戦闘機旅団を編成する可能性がある。たとえば第 3 師団第 9 連隊を旅団に改編するなど。

しかし本誌は、この改革が緩慢である主な理由として、中国空軍がロシア空軍の改革の成果を見極めるため、と見ている。中国空軍の組織のモデルは、本来旧ソ連を学習した結果である。旧ソ連の組織を引き継いだロシア空軍は、2012 年以降、師団を旅団（航空基地）に改編する事業を試行中である。しかもその動きは迅速で全軍に及んでいる。しかし 2014 年以降、ロシア空軍の一部は、連隊編成に戻した。特に東部軍区において、2013 年下半期、第 303 聯合航空兵師団を設立し、戦闘機及び爆撃機連隊を 1 つの師団に隷属させた。この師団は、最精鋭の師団であり、第 22、23 連隊を隷属させている。後者は SU-35S 型戦闘機を装備している。このことから、ロシア空軍の改革は多くの旅団を建設することにある。これは、たしかに組織の中間結節を減らしはしたが、過去の師団編成と比べると、聯合作戦能力、全体の作戦能力が低下している。これは一部旅団が師団編成に回帰する理由である。当然、全ての作戦部隊が回帰するわけではなく、将来のロシア空軍は混合編成で行くのかかもしれない。すなわち、師団も残し、旅団一大隊も残すという状態のまま。

これらのことから、大国空軍の改革とは、一定不変ではなく模索が必要だ。中国空軍及びロシア空軍は、現在改革を模索中である。しかも対象は、最新鋭戦闘機部隊である。

たとえ現在のロシア空軍師団が改革の産物であろうとも、また聯合師団であろうとも、上述の第 303 聯合航空兵師団には、TU-22M3 を有する第 277 爆撃航空兵連隊が所属している。衆知の通り、伝統的なソ連軍の編制では、1 つの師団には同一機種しか配備されていなかった。したがって旧ソ連では、爆撃航空兵師団とか戦闘機航空兵師団と呼称されていたのである。現在は、戦闘機と爆撃機の混成航空兵師団がある。したがって多様化した作戦任務に対する 1 個師団の能力は大幅に強化され、独立した旅団に比べ戦闘力をはるかに強化された。このような背景の下、中国空軍の SU-35 は、如何に編成されるべきか？中国空軍内部で現在激烈な論争が行われているようだ。

以上